

2023年度気象講演会

地球温暖化・農業の未来と大雨災害

秋田県の農業・水資源の未来と相次ぐ大雨災害を考える

講演 1

「地球温暖化と秋田県の農業・水資源」

講師 増本 隆夫(ますもと たかお)氏

(公立大学法人 秋田県立大学 生物資源科学部 アグリビジネス学科 教授)

講演 2

「集中豪雨と線状降水帯」

講師 廣川 康隆(ひろかわ やすたか)氏

(気象庁 気象研究所 台風・災害気象研究部 第二研究室 主任研究官)

日 時：令和5年11月18日(土)午後1時30分～午後4時00分

開場 午後1時

場 所：秋田県社会福祉会館 本館(A棟)10階 大会議室

〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5

定 員：120名(Eメールまたは電話による事前申込)

入場無料
(申込順)

申込先：秋田地方气象台 (申込締切 11月15日)

問合せ：TEL 018-864-3955(平日8時30分～17時15分)

Eメール：koenkai_akita@met.kishou.go.jp

主 催：日本気象学会東北支部

共 催：秋田地方气象台

後 援：秋田県・秋田市・国立大学法人秋田大学・公立大学法人秋田県立大学・日本気象協会東北支社
日本気象予報士会東北支部・地球ウォッチャーズ-気象友の会-

講演要旨



講演1

「地球温暖化と秋田県の農業・水資源」

講師 増本 隆夫(ますもと たかお)氏

(公立大学法人 秋田県立大学 生物資源科学部 アグリビジネス学科 教授)

最近では豪雨災害が頻発しているように、多くの変化は地球温暖化が原因ではないかといわれています。一方で、地球温暖化や気候変動の影響やそれらへの対応は、地域に住む人々が自らのこととして知っておく必要があります。

そこで、本講演では、秋田県の農業や水資源をとらえて、将来の気候変動の影響がどのような場面や場所に出てくるのかをみてみたいと思います。まず、秋田県内にみる地球温暖化や気候変動の兆候を、気温、桜の開花時期、降水量、洪水・氾濫発生等の面から概観します。その中で、境界分野での取り組みや極端現象（洪水・渇水）の増大が重要なことを示します。

次に、農業、水資源、洪水などへの影響をどのように評価するかを示し、秋田県における影響評価の実例や具体的な適応策などを提示します。さらに、それらが地域の農業施策や洪水対策、ひいてはエネルギー対策につながることを明らかにします。



講演2

「集中豪雨と線状降水帯」

講師 廣川 康隆(ひろかわ やすたか)氏

(気象庁 気象研究所 台風・災害気象研究部 第二研究室 主任研究官)

「集中豪雨」がひとたび発生すると、土砂災害や洪水、浸水害等によって甚大な人的・物的被害がしばしば生じます。集中豪雨のうち約半数は「線状降水帯」であることが統計的に示されており、大きな災害をもたらす一因として近年特に注目されています。線状降水帯に関する研究はこれまでに多く実施されているものの、その実態は未解明な部分が多く、発生時刻や地域を的確に予測することはまだまだ難しいことが現状の課題です。

本講演では、これまでの研究からわかってきた線状降水帯の構造や形成メカニズム、発生条件、発生頻度等の特徴を中心に紹介します。あわせて秋田県で生じた集中豪雨（今年7月）や線状降水帯（昨年8月や2013年8月）の特徴について解説します。